

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社第一コーポレーション
施設名	みらいく田園調布本町園
施設所在地	大田区田園調布本町21-12

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の栽培を通じて命のつながりを知る

<テーマの設定理由>

春から、保育園の園庭で様々な野菜を育てた。今年度から、畑のスペースを広くしたことで、様々な野菜を育てることができている。その中で、「来年もナスができるかな？」など、収穫後の野菜に興味を持つ様子が見られた。そこで、ナスを熟成させ、中身の種を見せると「来年は種から育つんだよ」と考えが浮かぶ子どももいた。

そこで、種から野菜を育ててみようということになり、秋に蒔いて、冬に収穫できる野菜を子ども達と調べ、育てることにした。小さな種から大きな野菜ができる驚きも感じてもらいたく、大根を育てることにし、野菜が十分に育ち、収穫の喜びも感じられる畑を借りることにした。

2. 活動スケジュール

9月	10月	12月
大根種まき（畑）	育てている野菜観察	さつまいも掘り
キャベツ、茎ブロッコリー、苗植え（畑）		茎ブロッコリー収穫
園庭のさつまいも観察	11月	1月
ナスの種観察	キャベツの収穫、観察	大根掘り
	小松菜種植え	3月
		大根のその後観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

園庭の一部を耕し、サツマイモを植えられるようにした。

シェア畑を2区画借りる

大根の種、茎ブロッコリー、キャベツ苗、小松菜種、さつまいも苗、肥料

くわ、シャベル、マルチ、虫よけネットなど栽培用具（シェア畑完備）

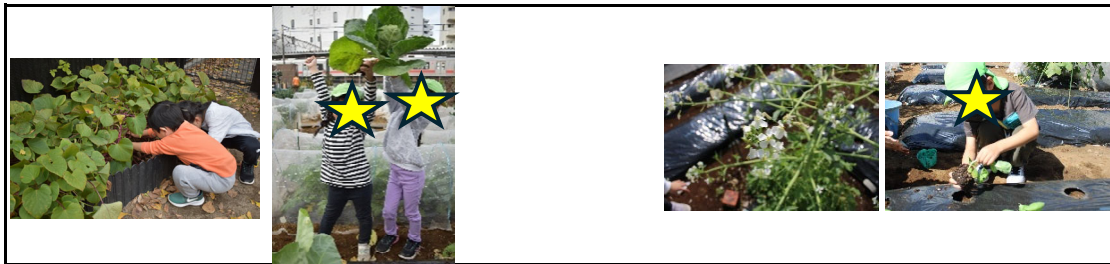
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

なすは花が咲き、実がなるが、さつまいもは変化がないことに興味を持った。
そこで、畑を借りて、他の野菜も育て、植物の育ち、命の繋げ方を考える機会とすることにした。
畑には大根の種を蒔いた。キャベツ、ブロッコリーの苗を植えてみた。
2週間に1度くらい、畑に観察に出かけた。
大根もキャベツもブロッコリーも葉を伸ばし、すくすく育った。
キャベツはまるまるとし、ブロッコリーは房をつけた。
収穫し、おいしく命をいただいた。
園庭で育てたサツマイモを掘った。土の中では小さいが芋が連なっている様子が見られた。
葉が枯れてきた1月に大根堀りをした。小さかった種から大きな大根になったことを感じてもらえた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは他園との共同シェア畑での苗植えや収穫を通して、「どのくらい大きくなっているかな」と野菜の成長や収穫したものを食べることを楽しみにするようになった。毎日生長を見たいという声から、園庭で茄子やさつまいもを苗から栽培を始めた。毎日交代で水やりを行う度に、ぐんぐんと成長する野菜の様子に喜びを見せ、「茄子の赤ちゃんができたよ!」と友だちと共有していた。野菜の最初は何からできているのか考えた時に、種という答えが出たことで、大根を種から栽培することになった。小さな種を見て、最初は「ここから野菜がでてくるの?」と不思議に思う様子があったが、葉や実が大きくなっていく様子を見て「こうやって大きくなるんだね」と保育者と生長の喜びを分かち合いながら、生長過程を初めから知ることができた。収穫した野菜は、何をして食べたいのかを調理さんを変えて話した。収穫する度に「どうやって食べよう」「あんまり好きじゃないなあ」と話しながらも、大根は塩もみしたり、茄子は餃子の皮ピザにしたりして食べるとほとんどの子どもが「美味しい!」と何度もおかわりをして苦手意識を克服することができていた。3月は大根の葉が伸び、花が開花の様子を見て、どのように野菜の命が繋がっていくかを考えた。花から大根が生えてくるのではないかと、花はそのまま萎んで終わりだよという声があったが、様々な過程を通して種になることを伝えると、野菜もみんなと同じように命が繋がっていくことを知っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な食べ物である野菜の育ちについて、実際に畑作業をしながら生長を感じ、知ることが出来た。器具を使って穴を開けたり、間引きをしたり、野菜を生長するには様々な工程があり、食べるまでに沢山手が掛かっていること、食することへのありがたみを子どもと一緒に感じる事が出来た。
また、野菜の生長や畑仕事に興味を持つようになったり、苦手な物も美味しく食べられるようになっていったりしていくことで食への関心が高まっていった。この活動をきっかけに、生長のサイクルにより命が繋がっていくことを知ったことで、更に食への興味を深めながら子どもたちが豊かに育ってほしいと思う。